

ひろか

だより

第364号
 令和4年11月17日
 発行
 弘果 弘前中央青果株式会社
 TEL 0172-27-5511



晩生種最盛期迎える

今年産晩生種の入荷が最盛期を迎え、弘果、津軽りんご市場では連日活気溢れる取引が続いています。晩生種の状況としては、各品種ともに品質が良く、肥大も良好で大玉傾向の出荷となりました。販売面では、競合する他県産りんごが、天候不順の影響により着色が進まず出荷に遅れが生じ、また、業者の長期貯蔵用の本格的な仕入れ、円安の影響による輸出需要の高まりから、総体的に引き合いが強くなりました。単価面では主力のサンふじで、平均単価が高水準で推移した昨年産には及ばないものの、平年以上の単価で取引されており、堅調な相場で推移しています。

買気活発で相場堅調に推移

出荷についてのお願い

キズ・スレ果の見落としが無い様、丁寧に選果しましょう。
 選果の際は、各等級品とも上面と箱底の品質が同じになる様お願いします。
 選果、運搬、荷下しの際は、オセやキズが付かない様丁寧に扱います。
 荷下しの際は、上段と下段の差が無い様をお願いします。
 木箱、コンテナ共に、三段積みを行う際は下段の様に組んでお願いします。



令和4年産 晩生種取扱数量・平均単価

弘果 (11月14日までの累計)

品名	数量(箱)	平均単価
王林	315,972	4,406
前年比	110.4	105.9
ふじ	481,578	6,851
前年比	101.9	101.0
サンふじ	686,771	4,623
前年比	98.1	85.0

津軽りんご市場 (11月14日までの累計)

品名	数量(箱)	平均単価
王林	150,318	4,538
前年比	115.0	112.0
ふじ	260,862	6,791
前年比	96.2	102.7
サンふじ	395,384	4,667
前年比	93.8	89.4

精算窓口支払時間 変更のお知らせ

弘果精算所
 【期間】11月14日(月) ~ 12月29日(木)
 【時間】6:30 ~ 17:00
 ※12月20日・12月29日は15時まで

津軽りんご市場精算所
 【期間】11月14日(月) ~ 12月29日(木)
 【時間】8:00 ~ 17:00
 ※12月29日は12時まで

土曜日・市場休業日・臨時営業日 精算所は休みです

75年目を迎えるりんご栽培の成果を出荷

東目屋小学校 東目屋中学校

出荷したりんごを前に勢ぞろいした生徒・児童達

東目屋中学校

当社第2卸売場において11月5日、弘前市立東目屋中学校の生徒達が栽培したりんごの競売が行われました。東目屋中学校では1947年(昭和22年)から学校でりんごを栽培しており、今年で75年目を迎えます。隣接する東目屋小学校の児童が作業を手伝い、同校のPTAも協力して、栽培から収穫、出荷までの一連の作業を行っています。当日は、東目屋中学校の生徒52名と小学校24名、教職員14名の総勢90名で手塩にかけ栽培したりんごの競売を見守りました。出荷された「サンふじ」約38箱、「王林」約17箱は次々と威勢よく競り落とされ、「サンふじ」が高値1箱1万5千円、「王林」が高値1箱1万2千円で取引されました。競売後、同校農園委員長の繁田(いおり)さんは「1箱1万5千円と高値で取引され、1年間みんなで協力し頑張った栽培してきた甲斐があったと嬉しく感じています。栽培から収穫、出荷まで一連の体験を通して、りんご栽培について深く学べて良かったです」と話していました。



りんご高密度植栽培実験～五農生が収穫体験～

高年齢や担い手不足等、青森県のりんご産業が抱える課題の解決策の一つとして、作業性、生産性の向上が期待される高密度栽培の普及が挙げられます。

弘果総合研究開発では、2019年4月から高密度栽培の実証実験に取り組んでおり、現在は津軽地区に9園地計55ヶ所、約1700本を栽培し、栽培技術の向上、普及推進に努めています。同試験園地の一つである、藤崎町にある成田雄大さんの園地6.2アールにおいて11月4日、収穫作業が行われました。定植2年目の今年約600kg(10アール当たり約1ト)の収穫となりました。今回は、高密度栽培の魅力や作業効率の良さを、農業を学ぶ高校生に知ってもらう目的で、五所川原農林高校の生徒12名(GAPチーム)が収穫体験しました。

生徒達は成田さんから「従来の栽培方法より早期の定植2年目から収穫が見込め、作業も効率的」等、高密度栽培のメリットについて説明を受け収穫を行いました。生徒達からは「はしごを使わなくても収穫できる範囲が大きく安全」「樹間が狭いので移動が少なくて済み、手の届く範囲で収穫できるので負担が少ない」等の感想があり、この栽培方法への将来性に大きな興味を示し、理解を深めていました。

「農」の「業」を継ぐ 期待の後継者



奈良

亮平さん (27)

家業である「農業」に希望を見出し、夢に向け努力する期待の後継者を紹介します。

【園地所在地】鶴岡町境 他
【家族構成(同居)】両親との3人家族
【作付状況】りんご・いちじく・ぶどう・40坪
【就農年】2016年
【きっかけ】「家業を継ぐことが嫌」「農業だけはやりたくない」等、農業に対してネガティブな感情が全くなく育ちました。むしろ、祖父と父から続く農地を継承し、一生の生業とするべく、学校の進路も五所川原農林高校から青森県営農大に進学し、本格的に農業を学べる学校へ進みま

予定通り、家業を盛り立てるために就農しました。【現在】ある程度は予測していたものの、学校で勉強、実習してきた「農業」との違いに最初は苦労しました。「事件は現場で起きていく」と、某刑事ドラマのセリフではありませんが、私の場合も栽培管理や農業経営において、教科書やマニュアル通りではない現場(畑)で起こっていることに対応し、解決していかねばならないことが多々ありました。それらが大きな経験の蓄積となり、役立っています。

【夢・展望】自身の農業経営規模拡大プロジェクトの一環として、ぶどう栽培に力を入れていきたいと考え、そのための準備(設備投資)を現在進行形で進めております。定植から収穫、本格的な出荷まで約4、5年掛かりますが、現実面(経費、労働力等)をきちんと直視した上で、大きな期待と希望を込めて、このプロジェクトを成功に導いていきたい。

【座右の銘】「千駄の肥より一時の季」肥料は一度にたくさんやっても効果はなく、適期に適切な量を施すべきであるという言葉を、営農大学時代から知りました。何事にも加減とタイミングが重要であると理解して、農業のみならず、日々の生活においても教訓として使っています。

旬がカリフラワー



色彩豊かなカリフラワーを栽培する工藤さん(右)

鮎ヶ沢町長平高原出荷組合の工藤まり子さん(約25坪の園地でカリ

フラワーを栽培しています。今年は6月上旬に播種、7月下旬に定植を行い、10月上旬から収穫が始まりました。長平地区は岩木山の裾野に位置し、その寒暖差がある風土から、野菜栽培が盛んに行われてい

ます。工藤さんもアスパラガス、毛豆、白菜、人参等、多品目を栽培し、近年需要が増えてきたカリフラワーに着目して、定番の白色(パロック)の他、オレンジ(オレンジブーケ)、緑色(連峰)と色彩豊かな品種を作付しています。工藤さんは今年のカリフラワーについて「8月上旬の大雨の影響で、一部園地が被害を受けて全く収穫できませんでした



が、概ね順調な生育で美味しく仕上がりました」と話していました。カリフラワーの収穫・出荷は11月下旬まで続きま

神奈川県内で青森フェア開催

神奈川県内に地域密着型スーパーを9店舗展開する「小田原百貨店」では10月18日から23日の6日間、青森県産の食材を集めたフェアを開催しました。同社とは昨年からの取引があり、青森県産の大きなフェアを開催するのは今回が初めてです。

「つがりあんシリーズの「津軽ゴールド」「つがりあんシャインマスカット」をはじめ、「車力ごぼう」「青森きくらげ」「毛豆」「スチューベン」など青森を代表する食材が店頭に並びました。担当バイヤーからは「青森県産の商品は以前からも取り扱っていましたが、今回フェアという形で大きく取り上げた結果いつもよりも売れ行きが良く、手ごたえを感じています。特に、産地直送で

硬く鮮度の良いりんごは大人気です」と話していました。また、今後について、「これからも定期的にフェアを行うなど企画をし、りんごだけでなく季節ごとの美味しい青森のものを味わってもらいたい」と話していました。

今回の企画に携わった商事担当者は「地道な売り込みが実を結んだ形の一つです。今後も他の店舗や地域でこういったフェアなどを開催してもらおう等働きかけ、青森の美味しいものを、そして弘果ブランドの『つがりあん』を更に広めていきたい」と意欲を見せていました。

弘前総合地方卸売市場内業務等の制限について (11/14 現在)

入場者	運送会社・取引業者・生産者・一般のお客様	消毒・マスク着用 (常時)
競売	セリ人	消毒・検温・マスク着用 (常時)
	買参人	人数制限 (競売1ヶ所につき1買参人あたり1名のみの参加) 消毒・検温・マスク着用 (常時)
	視察・見学	消毒・検温・マスク着用 (常時) 2週間前に申請・状況を助案し判断

市場内業務等の制限は状況に応じて更新されますので、詳しくはHPをご確認ください



青森県産品が並ぶ売場と商事担当

弘果物流 令和5年総合カタログ

好評配布中

内容等についてのお問い合わせは

(株)弘果物流
0172-27-1800

弘前水産 土曜市 福引き大会好評開催中

弘前水産地方卸売市場を一般開放する「弘前水産土曜市」は、毎週土曜日の朝7時から開催されており、土曜市では現在、11月限定の催しとして「歳末応援福引き大会」が開催されています。福引きは、場内の水産卸店舗での購入金額2千円ごとに1回可能で、同市場内で12月中に使える最高3千円の商品券が当たるチャンスがあります。福引きは毎週先着250本限定となっており、今年も1店舗ごとの購入金額だけでなく各店の合算が可能です。ただし、模擬セリや水産卸店舗以外での購入は対象外となります。



福引きに臨む来場者の列